

1 変更内容

項目	変更前 (環境影響評価方法書)	変更後
供給処理施設計画	海水熱利用システム 最大 6,000 m ³ /h	空気熱源ヒートポンプチラー 約 138 台
暖房及び給湯用ボイラー (各施設への熱供給)	7 台 ガス消費量：約 1,000 m ³ /h 〔重油換算：約 1,140L/h〕	11 台 ガス消費量：約 2,000 m ³ /h 〔重油換算：約 2,280L/h〕
給湯用ボイラー (MICE 施設への熱供給)	なし	9 台 ガス消費量：約 200 m ³ /h 〔重油換算：約 228L/h〕

2 変更理由

<供給処理施設計画>

方法書提出時から I R 事業全体の施設計画の見直しを行う中で、地震発生時、通常の運営時において、安全かつ安定的なエネルギー供給を行うには、空気熱源ヒートポンプチラーが適切であると考え、当該設備への変更を行うこととした。

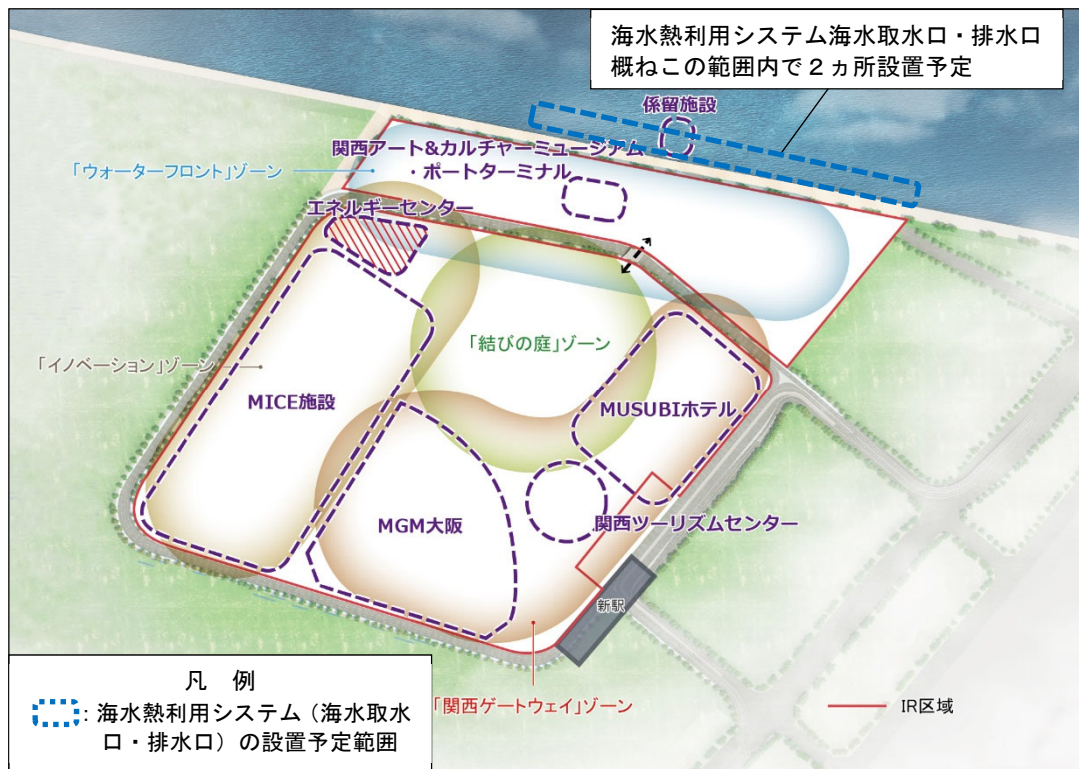
<暖房及び給湯用ボイラー>

方法書提出時からの設計進捗に伴い、各建物における用途面積割合や熱負荷原単位を詳細検討した結果、エネルギーセンターのボイラーの設置台数の増加が必要となった。

<給湯用ボイラー>

方法書提出時には M I C E 施設単体で厨房給湯用の熱源を設置する計画はなかったが、施設運用上の特性を考慮し、M I C E 施設において給湯用ボイラーを設置する計画に変更した。

<変更前（方法書時点）で想定した海水熱利用システム海水取水口・排水口の設置予定範囲>



<変更後の空気熱源ヒートポンプチャラーの配置計画>



図1 供給処理施設計画の変更内容

<変更前（方法書時点）で想定したガス利用施設の配置計画>



<変更後のガス利用施設の配置計画>

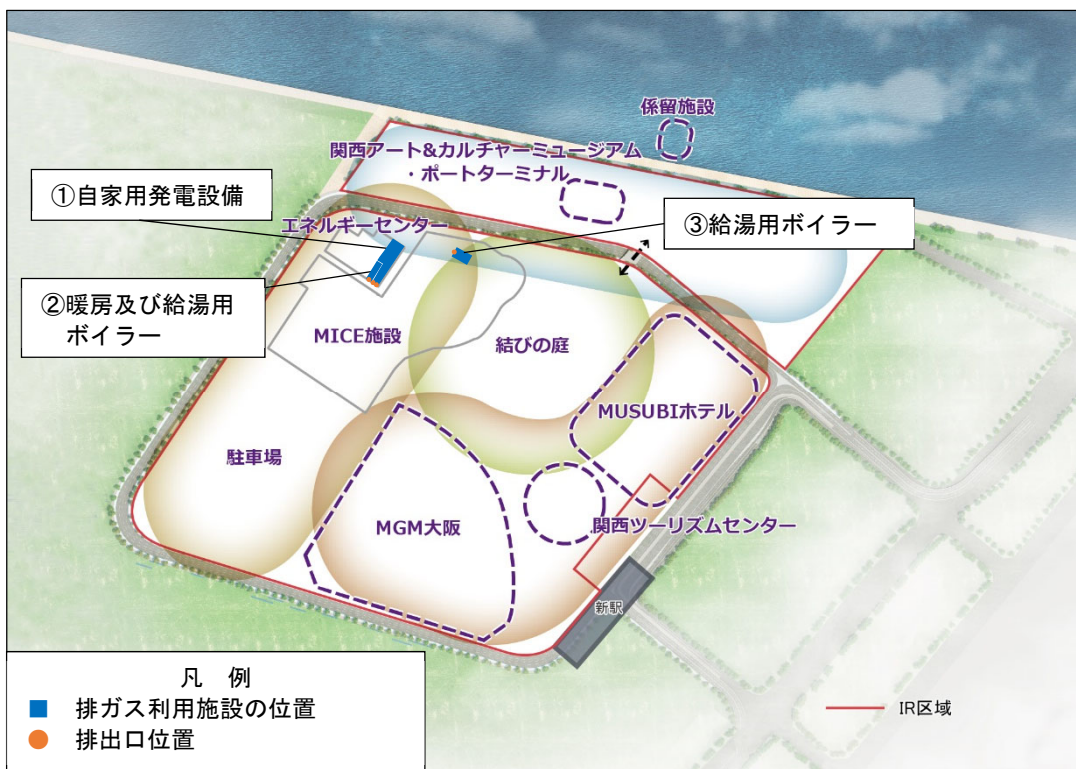


図2 ガス利用施設の配置計画の変更内容